



ほけんだより 7月号



令和5年7月1日発行

雨の晴れ間には夏の日差しが降り注ぎ、子どもたちは大好きな水遊びを楽しんでいます。気温も湿度も一気に上昇していくこれからの季節、食事や睡眠にはいつも以上に気を配っていきましょう。

とびひ

アトピーやあせも、虫刺され、すり傷などを手で触ったりかいたりすると、皮膚の表面に複数の細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれたり、水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏になると流行します。



患部を触った手で体の他の場所に触れると、感染がさらに広がります。ガーゼなどで覆って、患部に直接触れないようにしましょう。状態がひどい場合は医療機関に相談し、内服の抗生物質を処方してもらいます。登園の目安として、皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度になってからとなります。また、登園の際、保護者記入の「登園届」の提出が必要となります。



水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、ぶつっとした水ぼうが体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。時間はかかりますが、自然治癒します。

登園の目安として、液が出る場合はガーゼ等で覆って下さい。また、登園の際は、保護者記入の「登園届」の提出が必要となります。

▽皮膚のケア

子どもは新陳代謝が活発で、たくさんの汗をかきます。放っておくと皮膚（ひふ）のトラブルにもつながるので、体を清潔にして快適な毎日を送れるようにしましょう。下記の他に濡れタオルで優しく拭き取ることも効果的です。



汗をかいたら、こまめにシャワーを浴びましょう。

お風呂上がりは、バスタオルでしっかり体を拭きましょう。あせもができている時は、上から優しく押さえて水気を取ります。



乳児には、お風呂上がりの清潔な状態で、保湿クリームをつけましょう。